



物

徳

種員作  
國貞画

十五編下

1178  
30



名

丸六輯

十五編上

作道徳三國

1178  
29





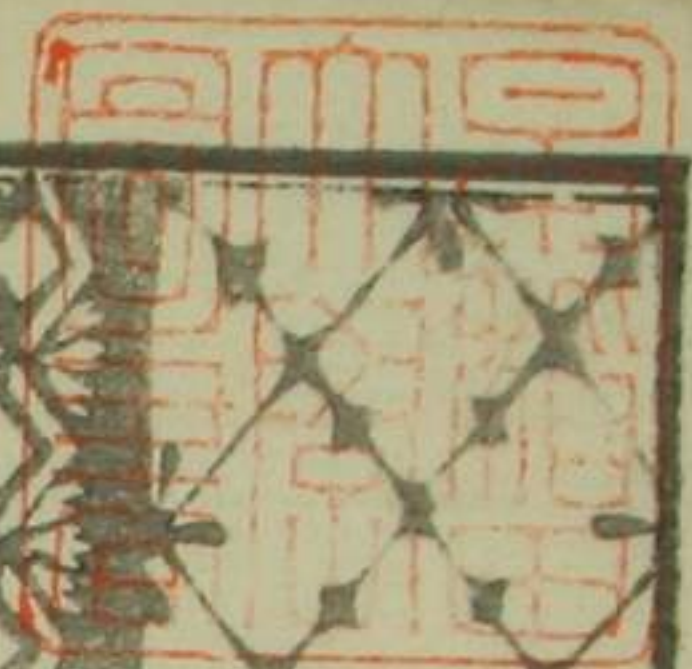
名  
の  
六  
輯

十五編上

外道書三回

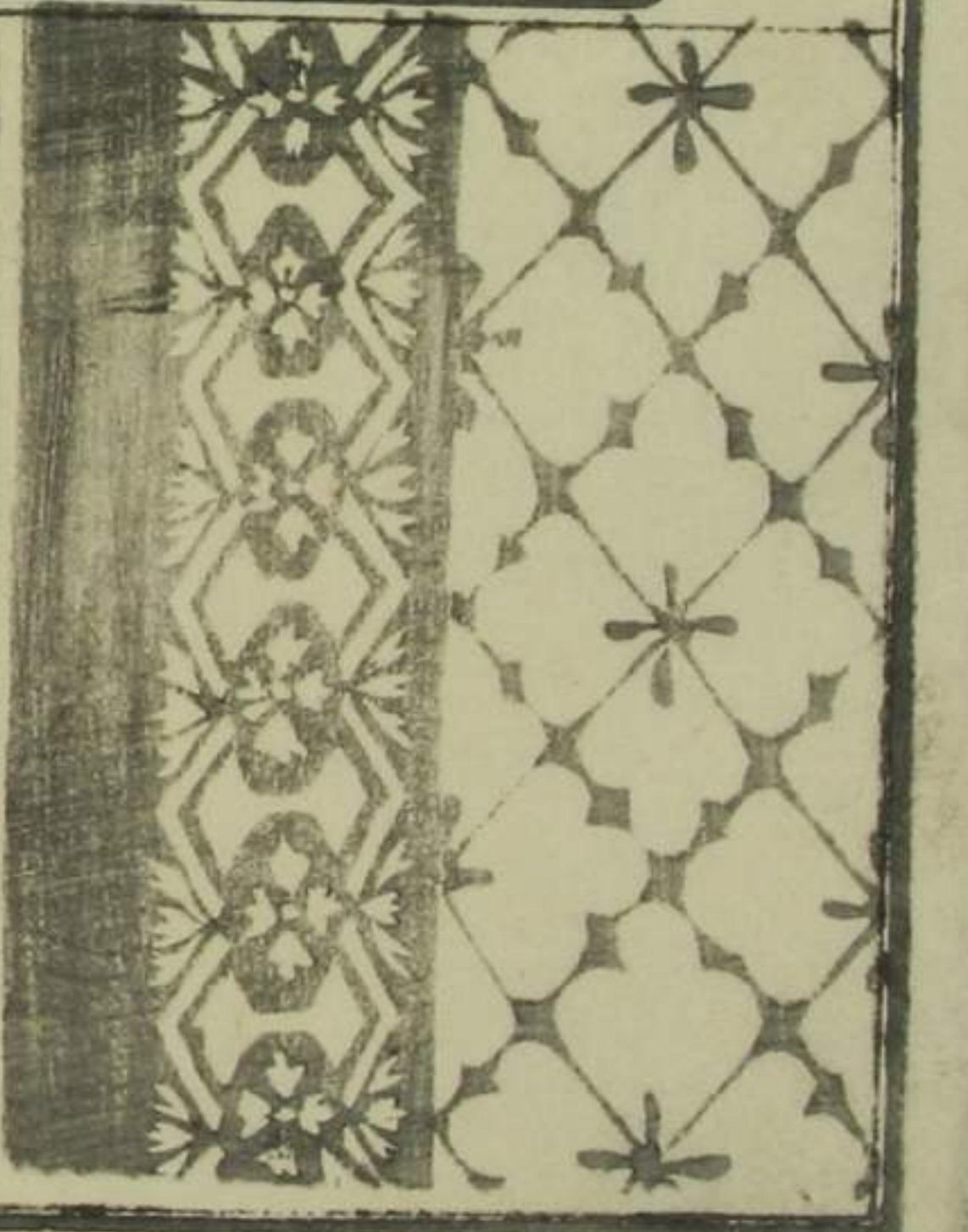
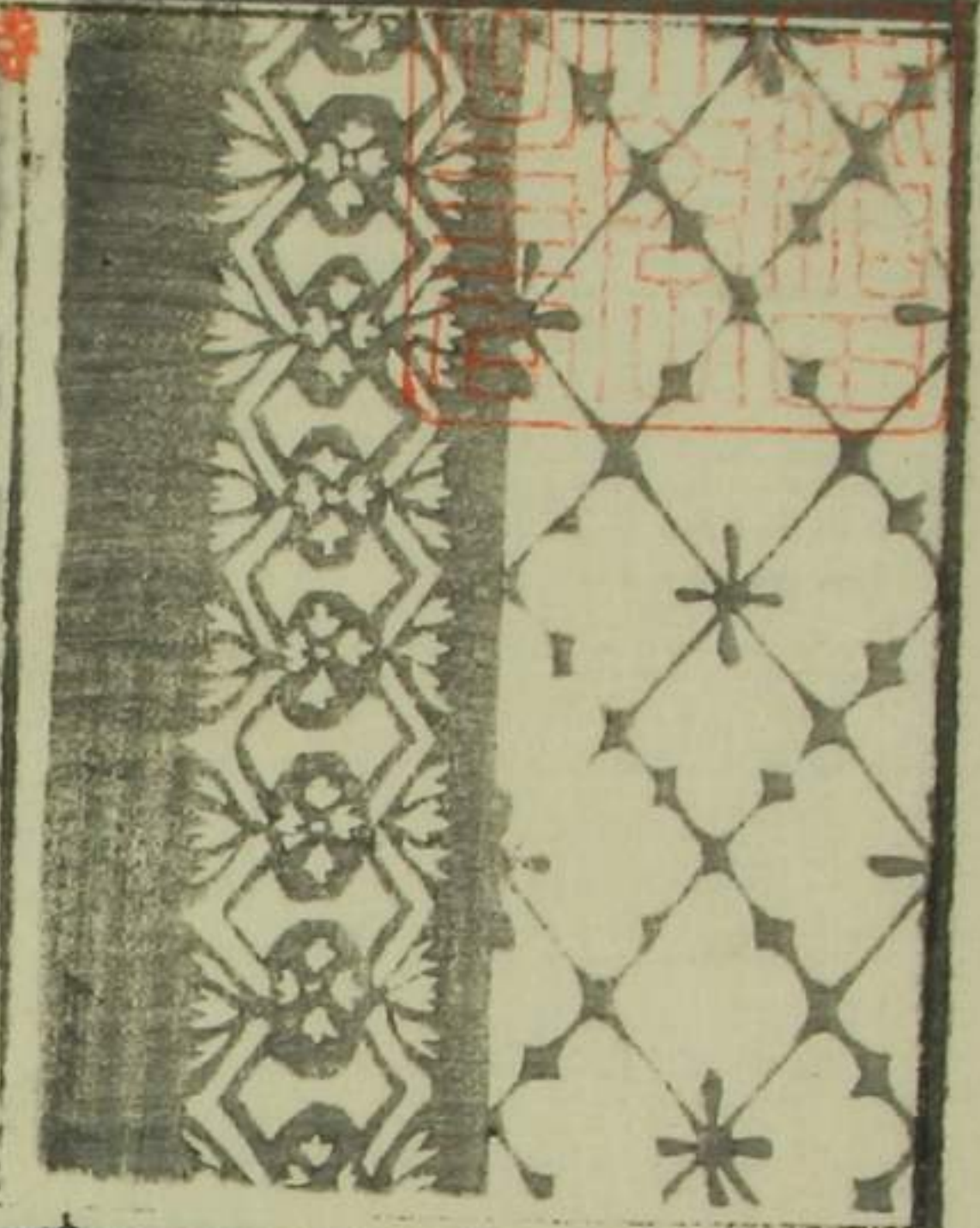
柳  
和  
本  
合

13  
1178  
29



1178  
29

十五編上  
種員作  
國貞画  
譚緯問  
柳下堂  
松林堂  
合蔭客

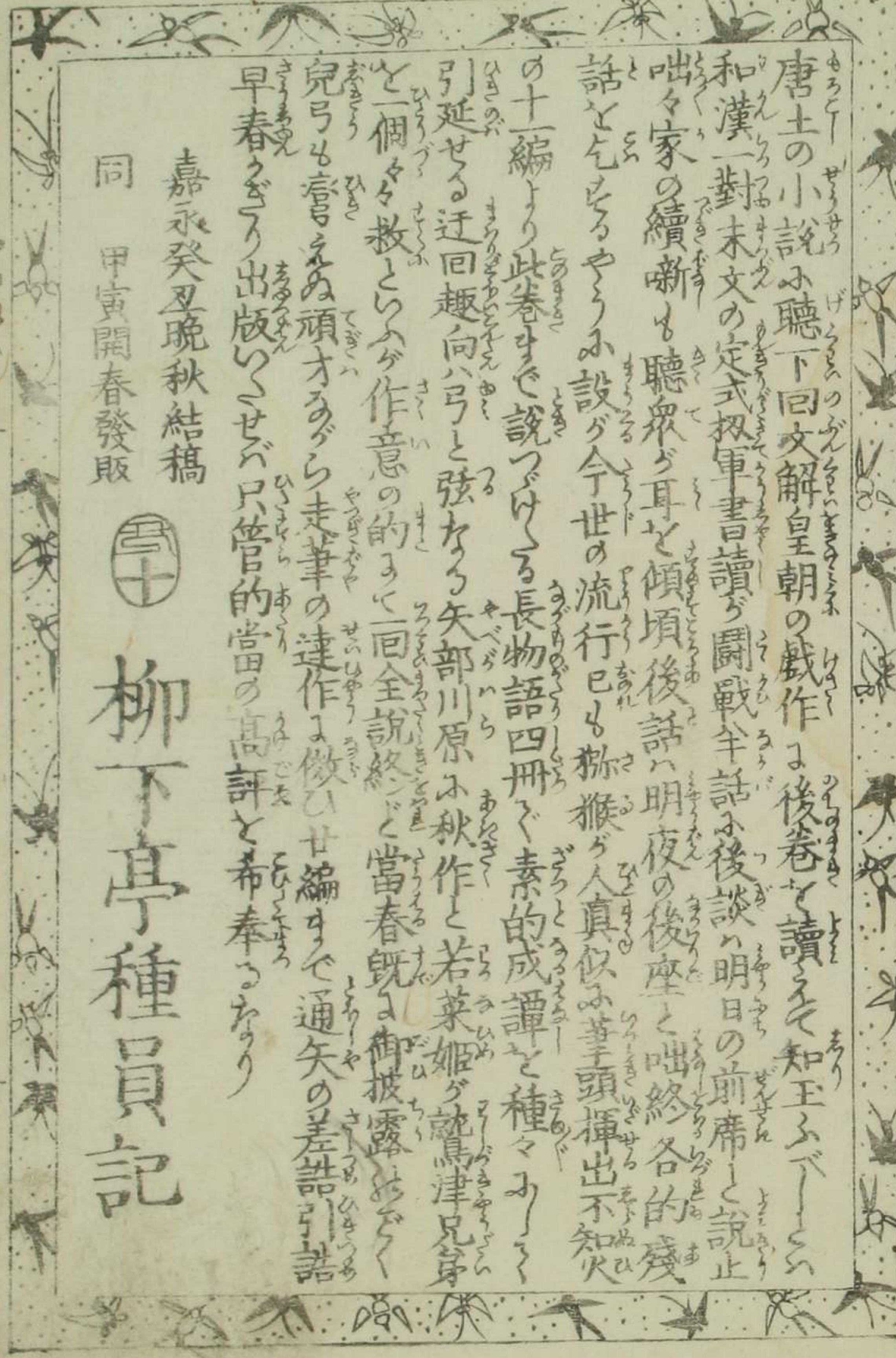


唐土の小説小聴下回文解皇朝の戯作は後巻を讀むを知王ふべし  
和漢一對末文の定式扱軍書讀み闘戰半話小後談明日の前席と説止  
咄々家の續漸も聴衆を耳を傾頃後話の明夜の後座と咄終各的殘  
話と乞とるやう小説今世の流行已も狝猴人真似ふ筆頭揮出不知火  
の十編より此巻まで説つづける長物語四冊を素的成譚と種々あり  
引延せる迂回趣向ハ弓と弦なる矢部川原小秋作と若菜姫が鷲津兄弟  
と一個々救との分作意的のまて回全説終ど當春既御披露はやく  
兒弓も奮まぬ頑才るがら走筆の連作は倣ひ廿編まで通矢の差詰引諾  
早春をより出版しせば只管的當の高評と希奉るなり

嘉永癸丑晚秋結稿  
同 甲寅開春發販



柳下亭種員記





實平七郎正吉

一度筑後國高良山の  
大天狗霧太郎  
偽名をまかす



武津六郎正辰

曲玉園

鳥山秋作  
輝忠  
敵を討  
つる



三十一

三



三十二

此通ハ  
下の方へ  
二丁

















あつちのうら  
まはなほ  
あつちのうら  
まはなほ

あつちのうら  
まはなほ  
あつちのうら  
まはなほ

あつちのうら  
まはなほ  
あつちのうら  
まはなほ



あつちのうら  
まはなほ  
あつちのうら  
まはなほ

あつちのうら  
まはなほ  
あつちのうら  
まはなほ

あつちのうら  
まはなほ  
あつちのうら  
まはなほ

種員作國貞画



志々ぬひ禪

五拾四編リ柳亭種彦作  
六編ニテ一惠齋芳幾画

兩面織花田物語

初編ヨリ  
五編迄  
近刻同

作

假名續八犬傳

三十編ハ假名垣魯文録  
三十五編ハ朝霞樓芳葵画

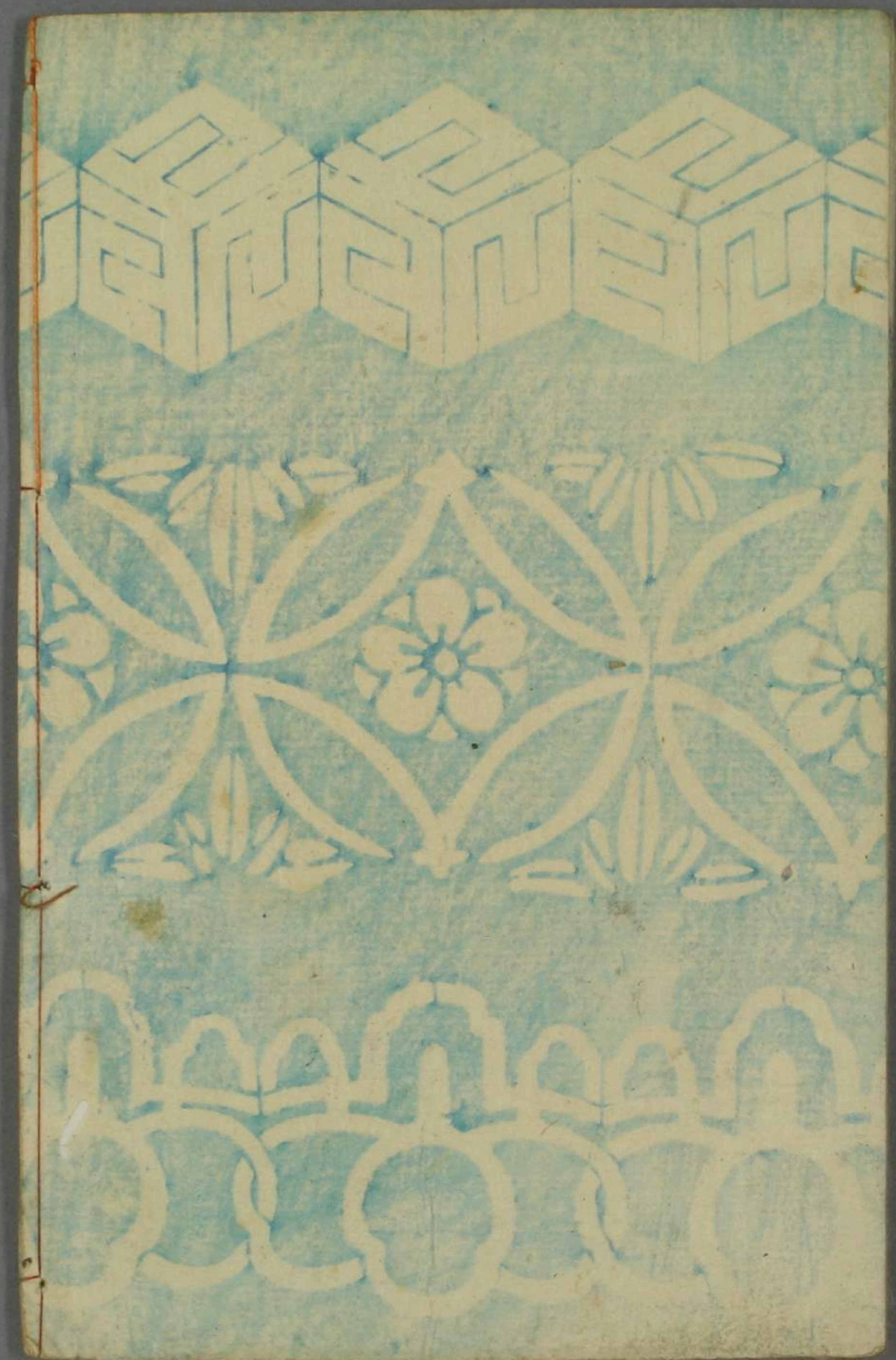
古今  
能優 似顏大全

故豊國公羽筆

大錦 白三香續

太平記英勇傳

中 錦山々亭有人記  
百番續 惠齋芳幾圖



物

徳

種員作  
國貞画



十五編下

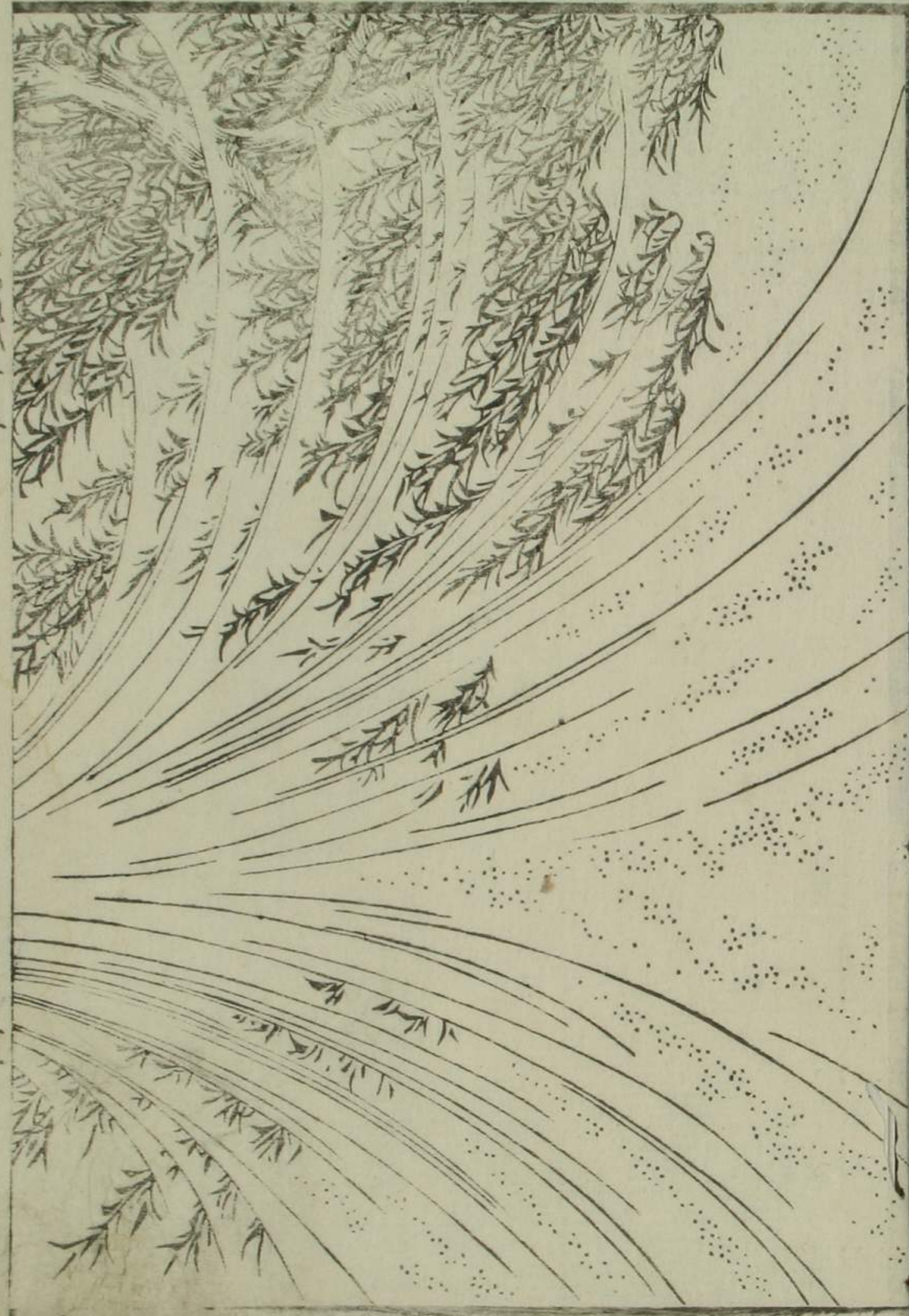


13  
1178  
30











Handwritten Japanese text in the upper right corner of the left page, including a circled character '秋' (Autumn).



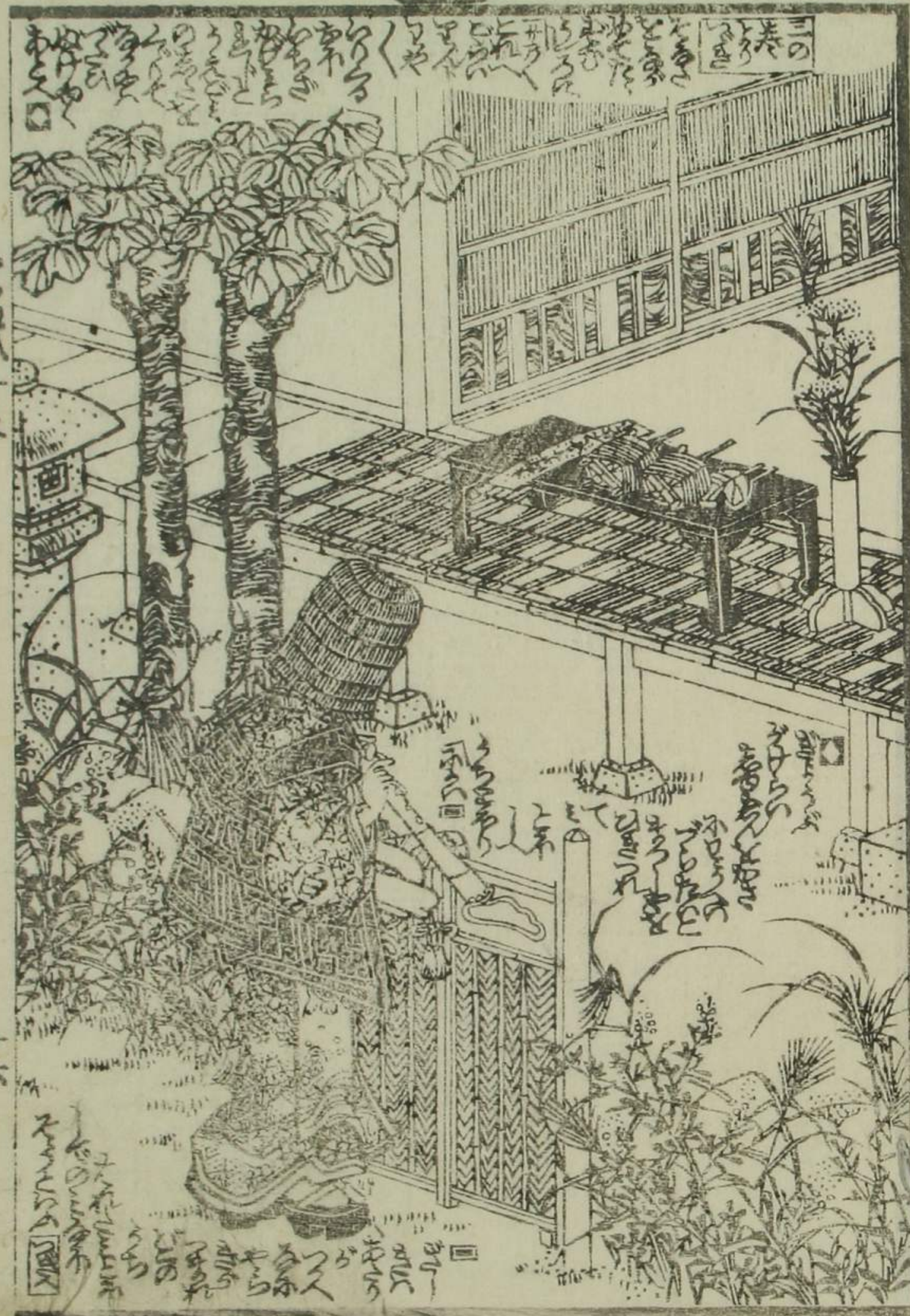
Handwritten Japanese text in the upper right corner of the top right page, including a circled character '春' (Spring).

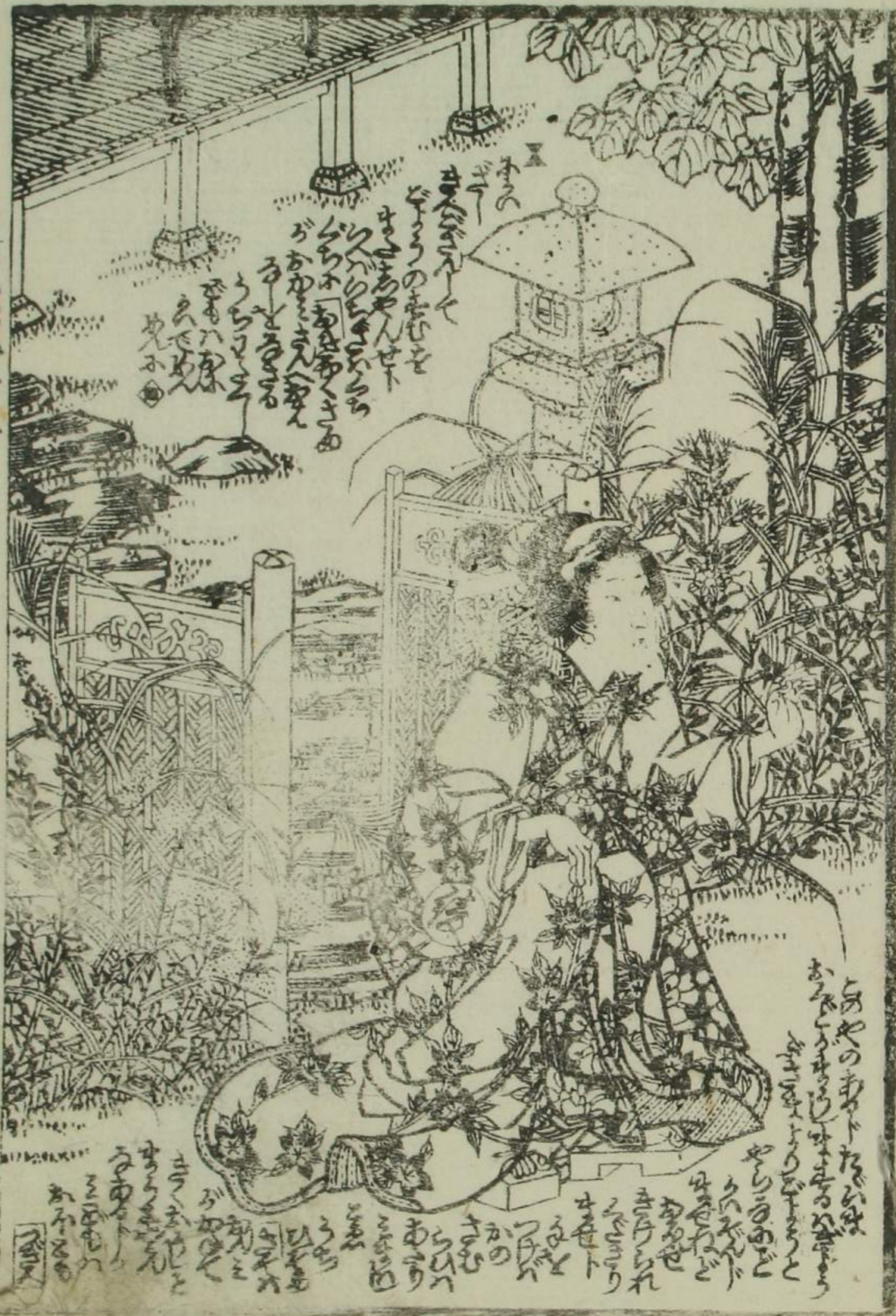


Handwritten Japanese text in the upper right corner of the bottom right page, including a circled character '夏' (Summer).







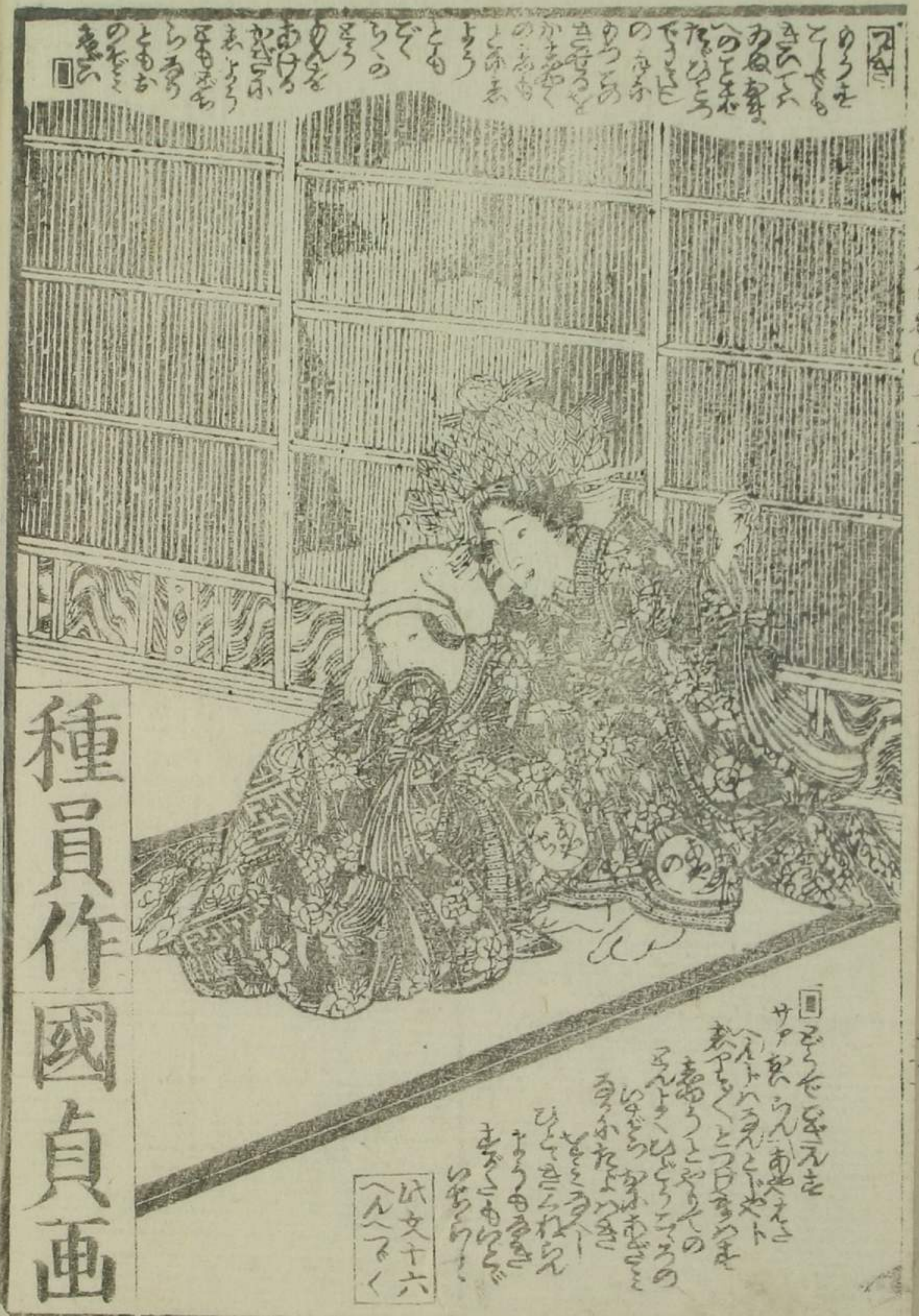












種員作國貞画

以文十六  
へんへく

名譽の義殿  
楠木金輔  
名譽の孝女  
杉豆於市

朝霞樓芳幾画  
浪輝黄金鯁

三編讀切

瀬川 如泉  
山々亭 有幾人合  
惠齋 芳魚  
梅素 玄魚  
松湖 交來  
假名垣 魯文  
可竹 其水作

一對男の縁小因に戯作劇場の二様山竹林多々ぬ七軒人が一回五葉を持きりの  
 合作全備の三編冊 初編 其水作同 有人作同 交來作  
 同 如泉作 二編 其水作同 有人作同 其水同 有人  
 三編 方魚作同 其水同 曾文同 其水如斯の持場故  
 定め二五の筆力とてはくし浮當藏板のあらぬ以同様御高評を希ふ

北の草紙四巻

江戸深川佐賀町  
廣園屋幸助梓

